

2019年7月7日礼拝説教要約

キリストの土台の上に

(1コリント3・10～17)

一、キリストの土台の上に

10節をご覧ください。(与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。そして、ほかの人がその上に家を建てています。しかし、どのように建てるかについてはそれぞれが注意しなければなりません。)

パウロは語りました。

コリントは、パウロの2回目の宣教旅行の際、1年半伝道活動を続けることにより、多くのコリント人がイエス・キリストを信じた地域です。そのことが、使徒の働き18章に書かれています。その、コリントの教会について、パウロは確信を持って語っています。(与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。自分が果たした務めに自信を持っていたのであります。もちろん高慢になっていません。(与えられた神の恵みによって)やったというのが、パウロの心情だからです。同じくコリント人への手紙第一15章10節でも語っています。(私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。)

二、信仰生活と「結果」

3章10節に戻りますが、先ほどの続きで、次のように語っています。(そして、ほかの人がその上に家を建てています。)

パウロの使命は「使徒」でしたから、一箇所に留まらず、コリント教会の信仰の土台を築いた後、次の地域に行きました。そして他の信仰者たちが、イエス・キリストという信仰の土台の上に信仰の家を建てました。信仰の家とは、もちろん目に見えない信仰の家のことです。そうしますと何年、何十年か経って、結果が現れてまいります。

パウロがコリントの地に教会を築いたのが紀元50年頃のことでした。そして、コリント人への手紙第一を書き送ったのが紀元55年頃のことです。と言うことは、コリントの教会がスタートして5年ほど経ったときに、教会の状況を聞いて、手紙を書いたこととなります。5年間ですと、結果を見てどうのこうの言うには期間が少し短いようにも思えます。ですが、聖書本文を見る限り、結果は現れていたと言えます。12節、13節です。(もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。)

教会の土台、そして信仰者一人ひと

りの土台はイエス・キリストであり、この方以外に土台はありません。そうであっても、信仰の家はそれぞれに出来上がってまいります。パウロは、神の家を建てる材料を金、銀、宝石、木、草、わらにたとえています。金、銀、宝石は貴い材料としての比喩であり、木、草、わらは貴くない建設材料の比喩です。材料が良かったのか否かが、時間の経過によってはっきりします。

パウロは、コリントの教会のことだけを見て、これらを語ったのではないと思われます。パウロが救われたのは紀元33年頃のことです。コリント人への手紙を執筆したのが紀元55年頃ですから、伝道活動を始めてから20年以上の歳月が経過していることとなります。20年経ちますと、自分がやったことの結果が現れてまいります。

15節をご覧ください。(もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けませんが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。)

パウロは、教会に襲ってくる試練の時を想定したのであります。ようか、試練の日には、各人が建てた、目に見えない信仰の家の真価が試されます。イエス・キリストという土台の上に、主の御意思に合わない家を建てるなら、逆境の日には土台だけが残って上の建物はすべて燃えてしまう、と語っています。

三、「土台」は残る

そうしますと、様々な試練を経て今現在残っている信仰の家、言い換えるなら信仰の形は貴いものである、と言えるのではないのでしょうか。もちろん今現在残っている信仰の家、ないしは形という場合に、答えは一つではありません。キリスト教会と言っても様々な信仰スタイルがありますし、個人個人においてもそうです。ですが、その信仰は幾多の試練を経て勝ち取られたものであるがゆえに、貴いものです。

教会の土台はイエス・キリストです。そこに信仰の家を築いて行くことになりますが、私たちは様々な経験をします。それが試練である場合、試練は私共の信仰を神の御意思に近づくものになります。

今一度、15節をご覧ください。(もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けませんが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。)

あります。イエス・キリストと言う土台の上に築いているなら、逆境の日、それまで築き上げられてきたものが燃え尽きて、跡形もなくなったとしても、土台は残り、やり直しができることを教えられます。

信仰の土台なる主イエス・キリストに、栄光と誉れと感謝を献げようではありませんか。